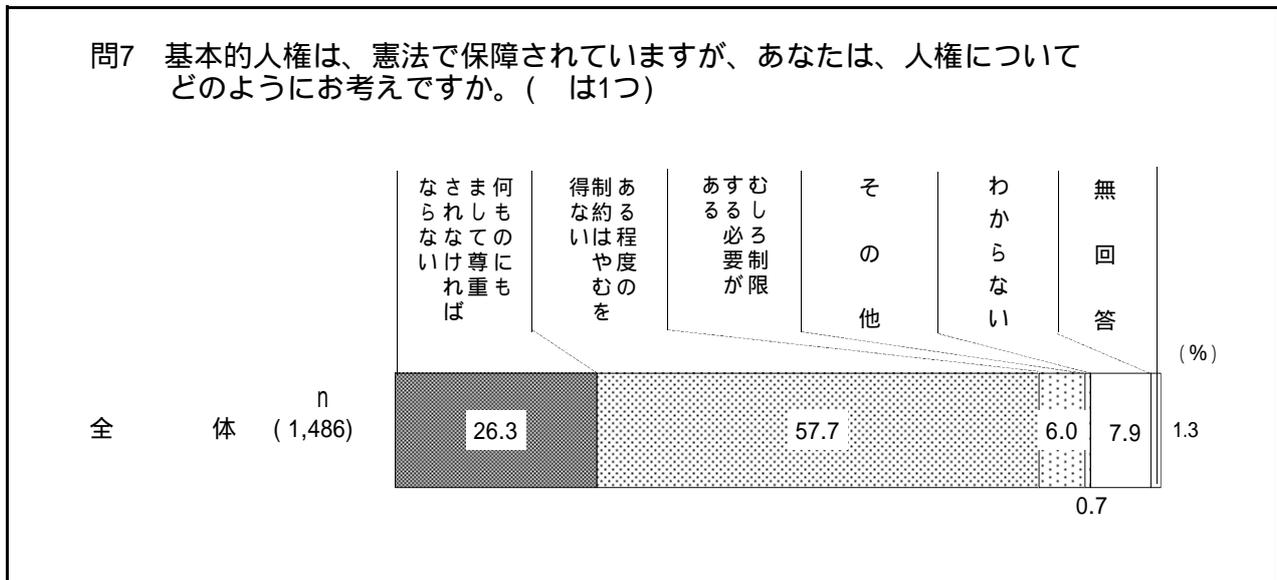


## 2 人 権

### (1) 基 本 的 人 権

ある程度の制約はやむを得ないが60%弱を占める

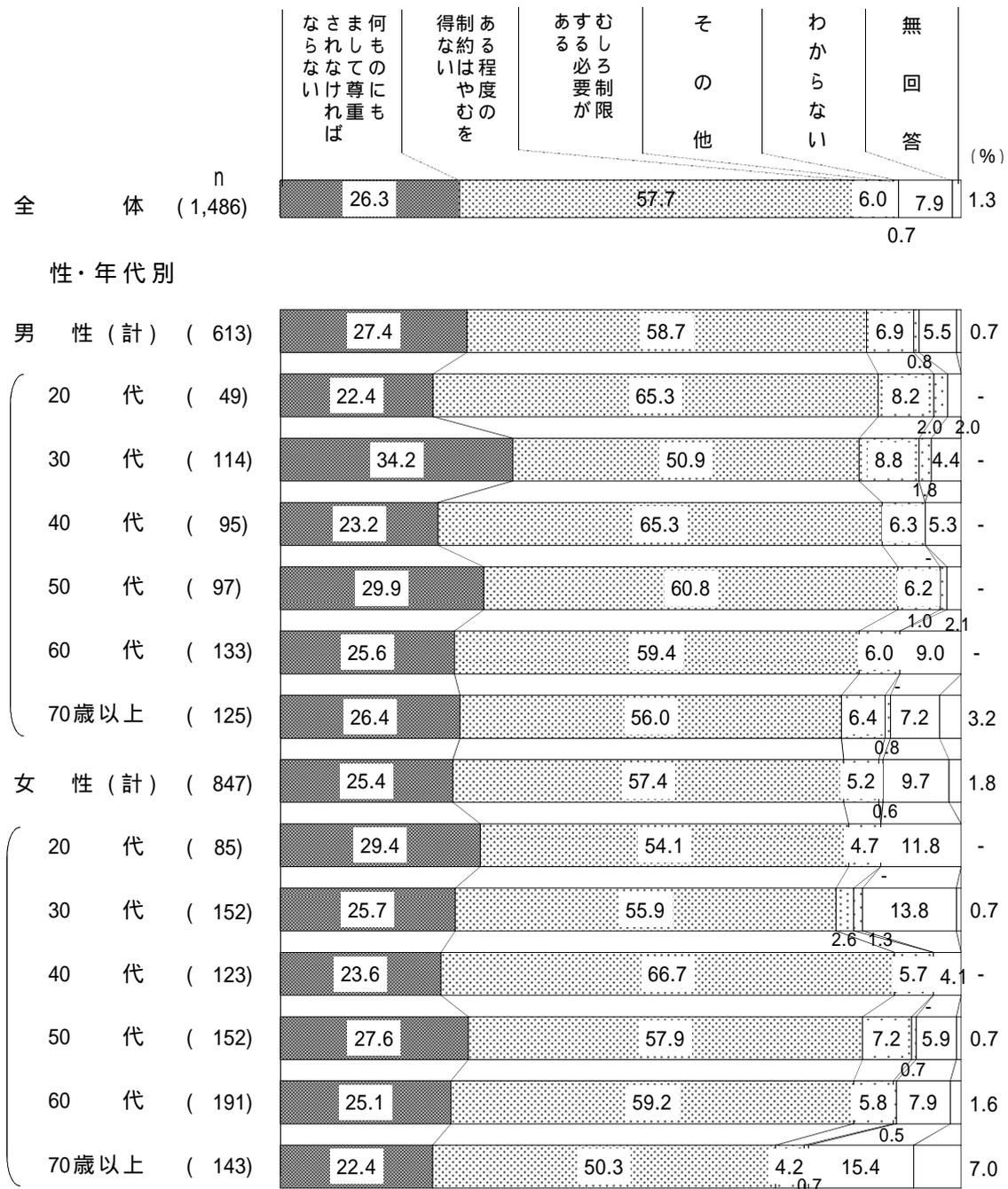


「ある程度の制約はやむを得ない」が全体の60%弱を占める。

「何ものにもまして尊重されなければならない」は26.3%にとどまっている。

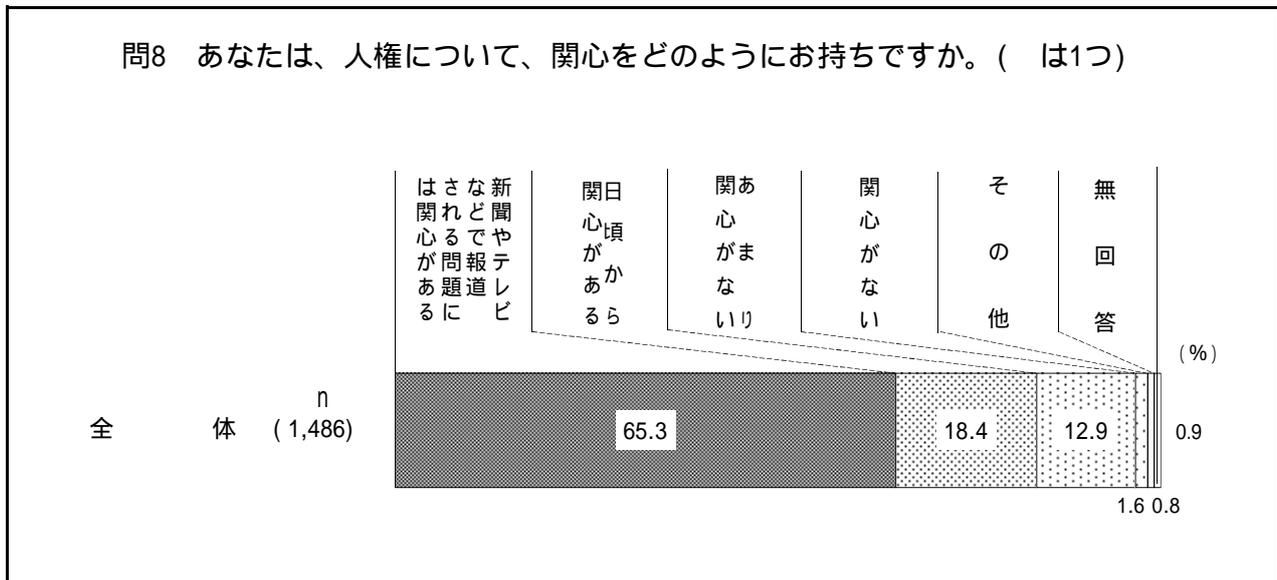
性・年代別に見ると図2-1-1のとおりである。「ある程度の制約はやむを得ない」は60%台で女性40代(66.7%)、男性20代、40代(65.3%)、男性50代(60.8%)の順に比較的高い。「何ものにもまして尊重されなければならない」は男性30代が唯一30%台(34.2%)で最も高い。次いで、男性50代(29.9%)、女性20代(29.4%)の順となっている。

図 2 - 1 - 1 基本的人権 (性・年代別)



## (2) 人権についての関心度

「新聞やテレビなどで報道される問題には関心がある」が全体の約2/3を占める。



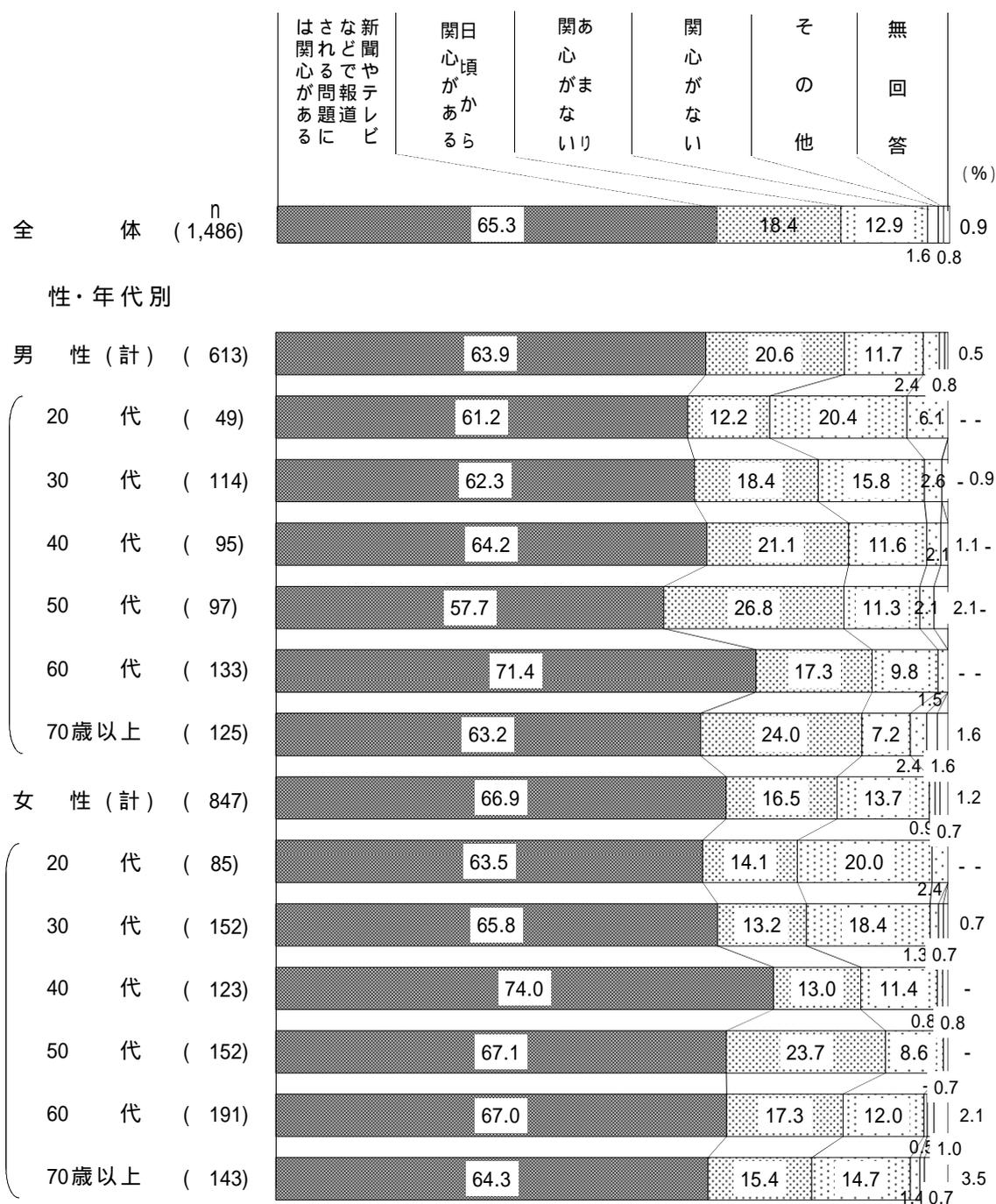
《関心がある》合計は83.7%である。但し、「日頃から関心がある」は18.4%にとどまっている。一方、《関心がない》合計は14.5%である。

性・年代別に見ると図2-2-1のとおりである。

男女別で比較すると《関心がある》は男女とも84%前後でほぼ同率である。

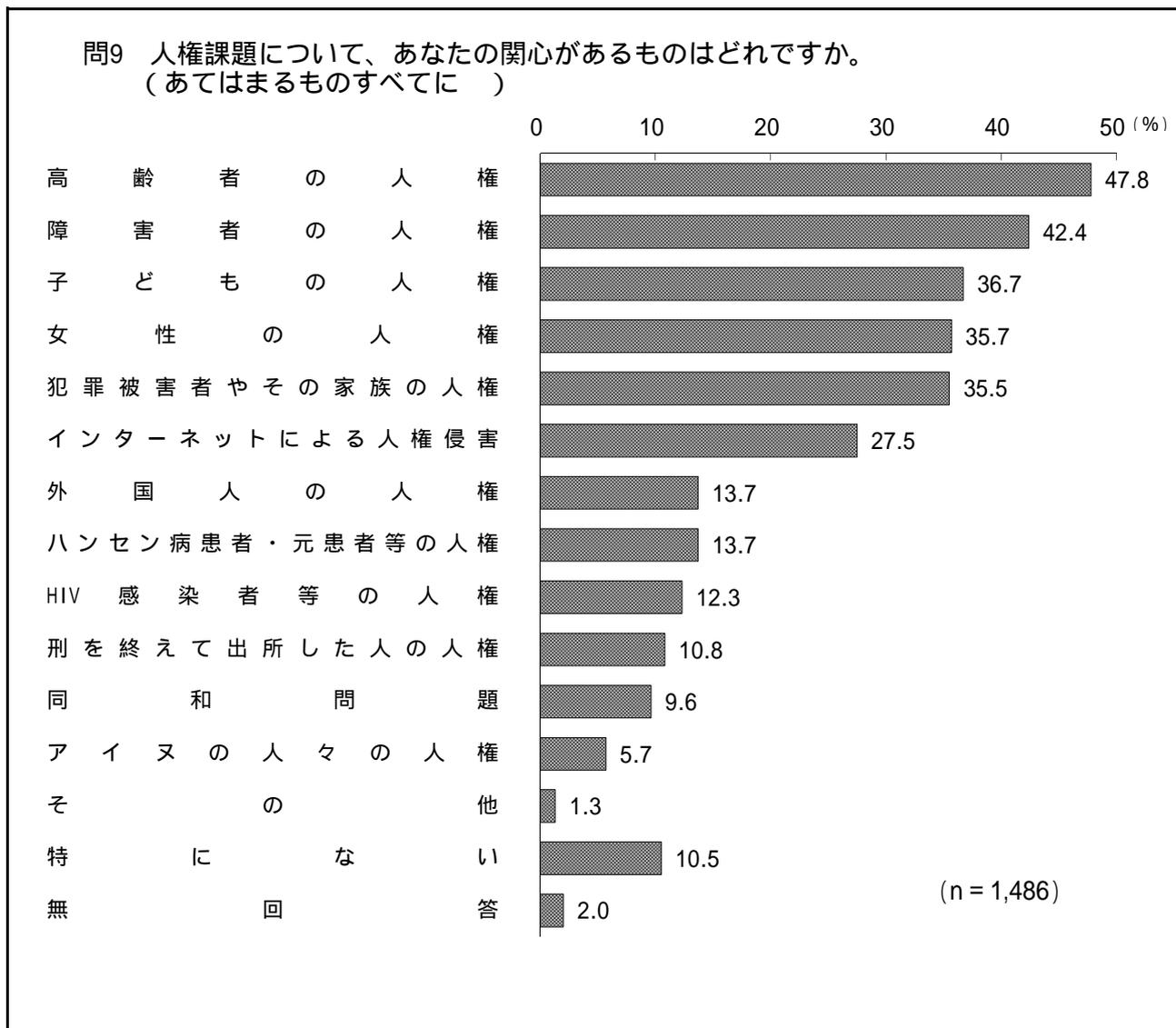
性・年代別では《関心がある》が唯一90%台(90.8%)なのは、女性50代である。反対に80%以下は男女とも20代である。「日頃から関心がある」で20%台で比較的高いのは男女50代、70歳以上である。

図 2 - 2 - 1 人権についての関心度 (性・年代別)



### (3) 人権課題についての関心度

高齢者と障害者の人権が上位にあげられている



人権課題についての関心度で40%台では「高齢者の人権」と「障害者の人権」が、30%台では「子どもの人権」、「女性の人権」、「犯罪被害者やその家族の人権」が各々あげられている。

性・年代別をみると図2-3-1のとおりである。

各々の人権課題で50%台を超える性・年代は次のとおりである。

「高齢者の人権」では女性50代以降、男性60代以降である。

「子どもの人権」では唯一女性30代（53.3%）である。

「女性の人権」では女性20代、30代、40代で、男女間の平均に最もひらきがみられる。

「犯罪者やその家族の人権」では唯一女性30代（50.0%）である。

図2-3-1 人権課題についての関心度（性・年代別）

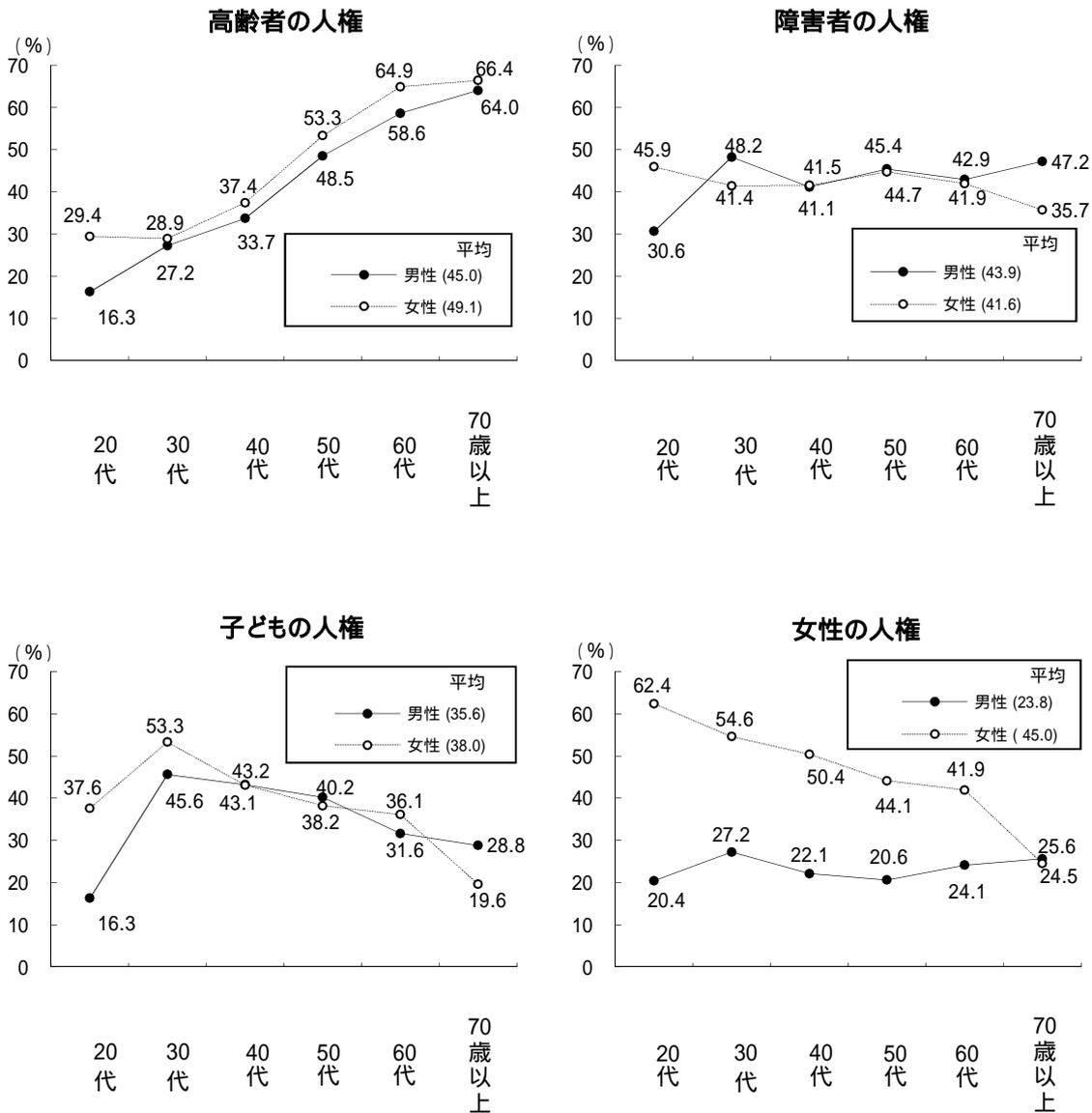


図 2 - 3 - 1 人権課題についての関心度 (性・年代別) - つづき -

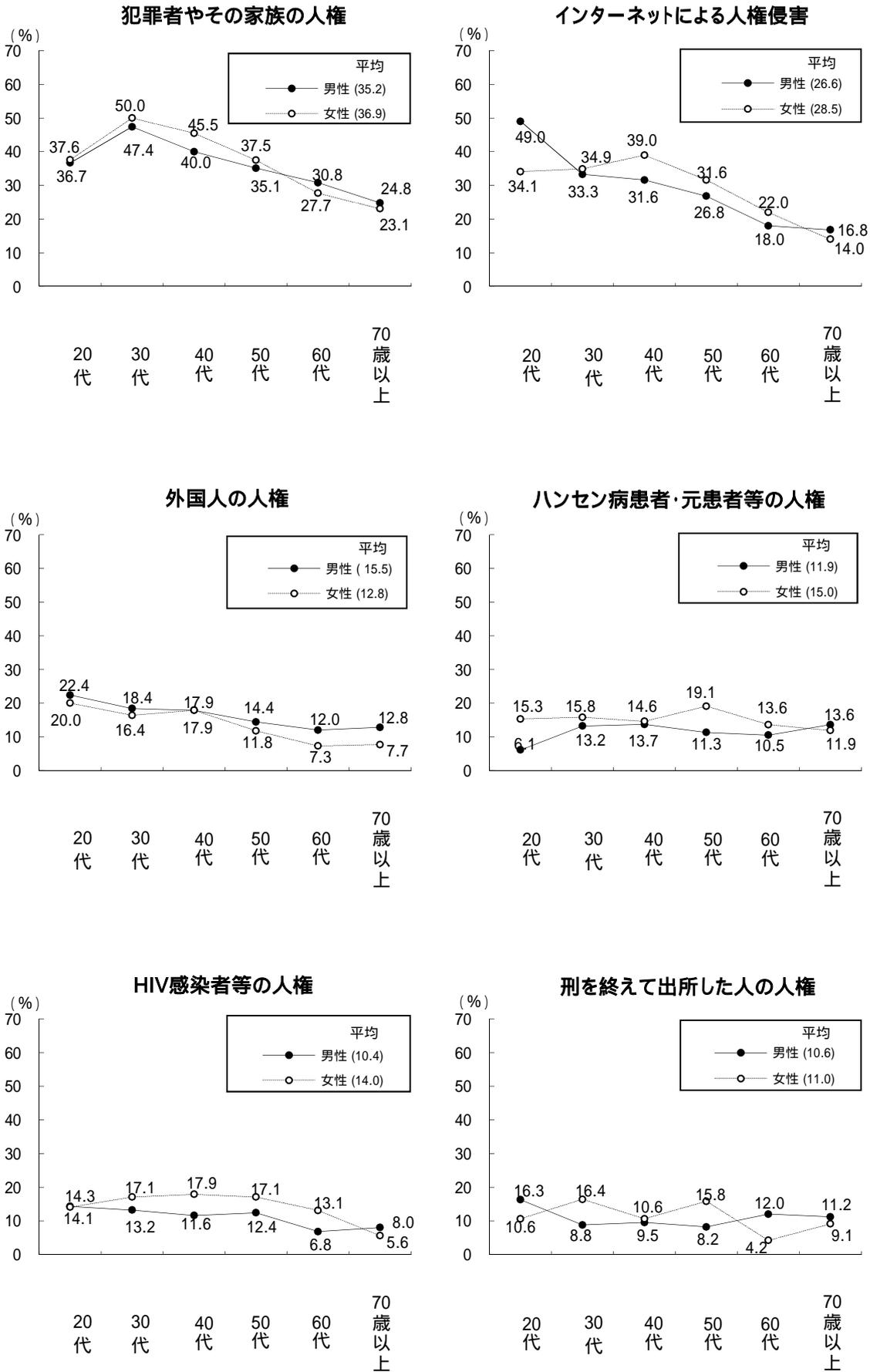
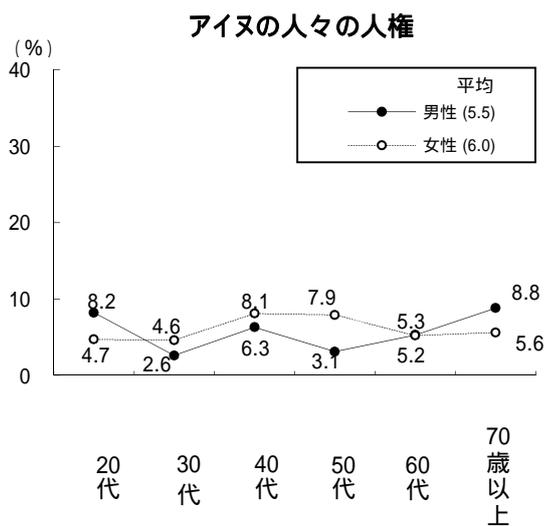
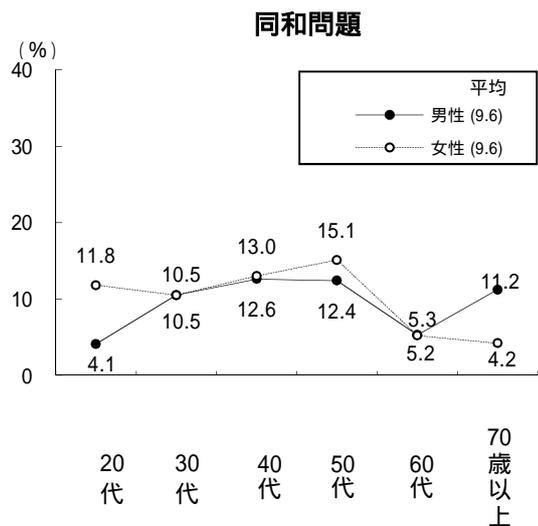
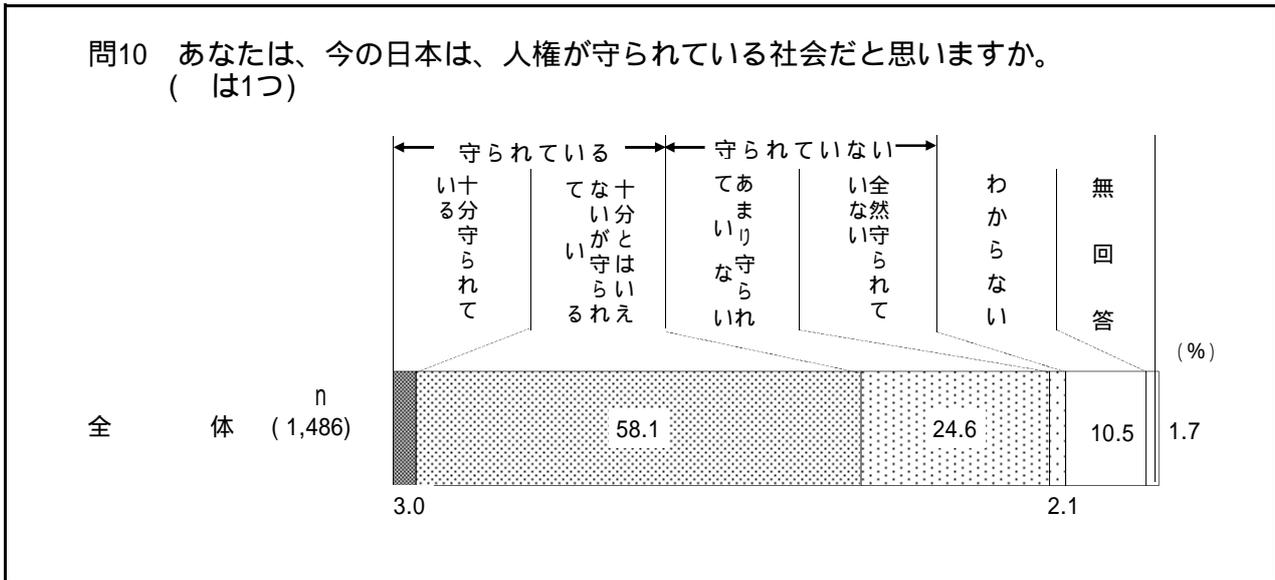


図 2 - 3 - 1 人権課題についての関心度 (性・年代別) - つづき -



#### (4) 人権が守られている程度

「十分守られている」は3%にすぎない



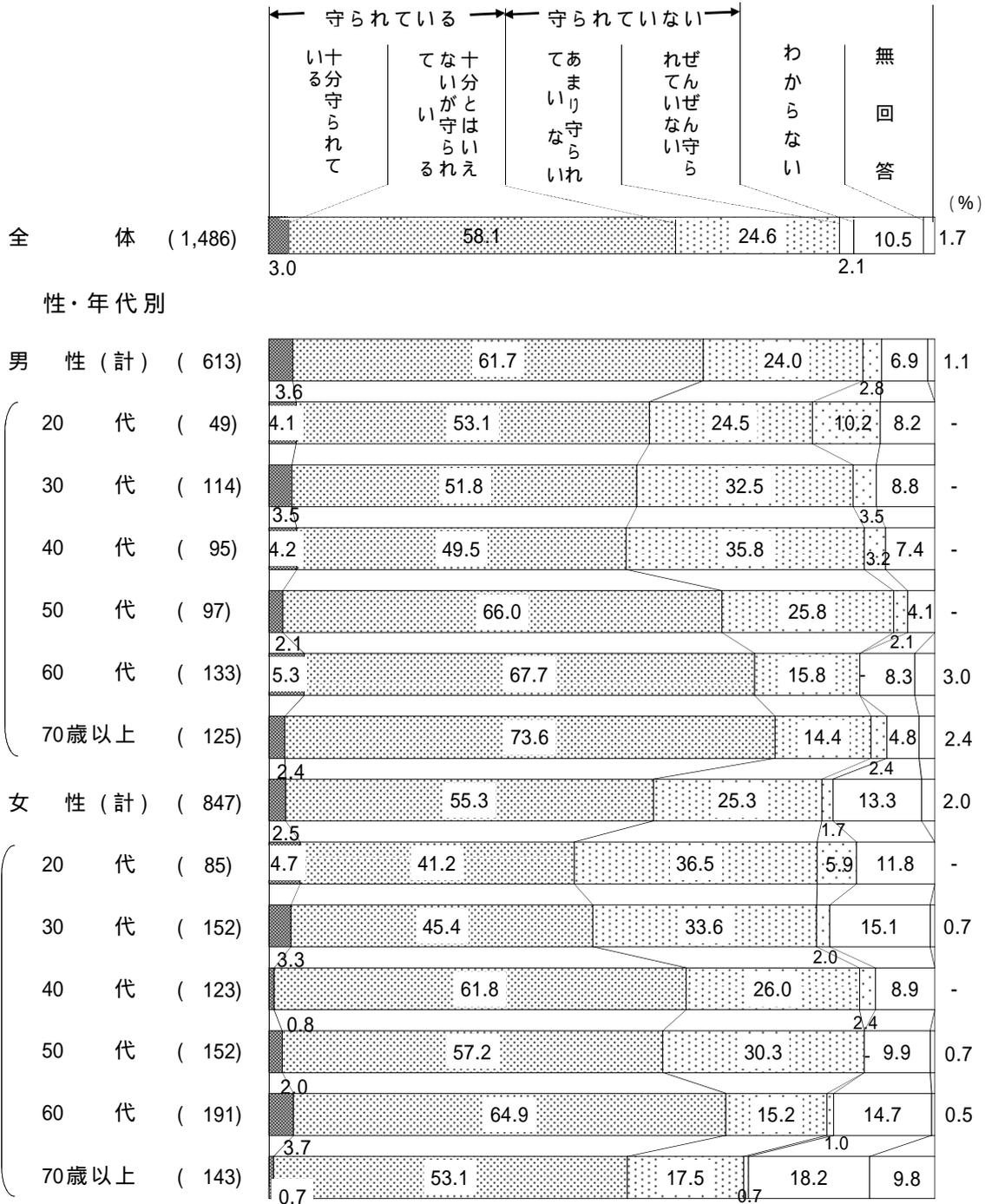
今の日本で、人権が守られている程度で《守られている》は61.1%である。

その内「十分守られている」は3.0%にすぎない。

《守られていない》は26.7%で、全体の1/4強を占めている。

性・年代別をみると図2-4-1のとおりである。男女間の比較では、《守られている》は男性（65.3%）、女性（57.8%）で男性の方が7.5ポイント高い。《守られている》は70%台で男性70歳以上（76.0%）、60代（73.0%）が高い。《守られていない》唯一40%台（42.4%）で女性20代が高い。

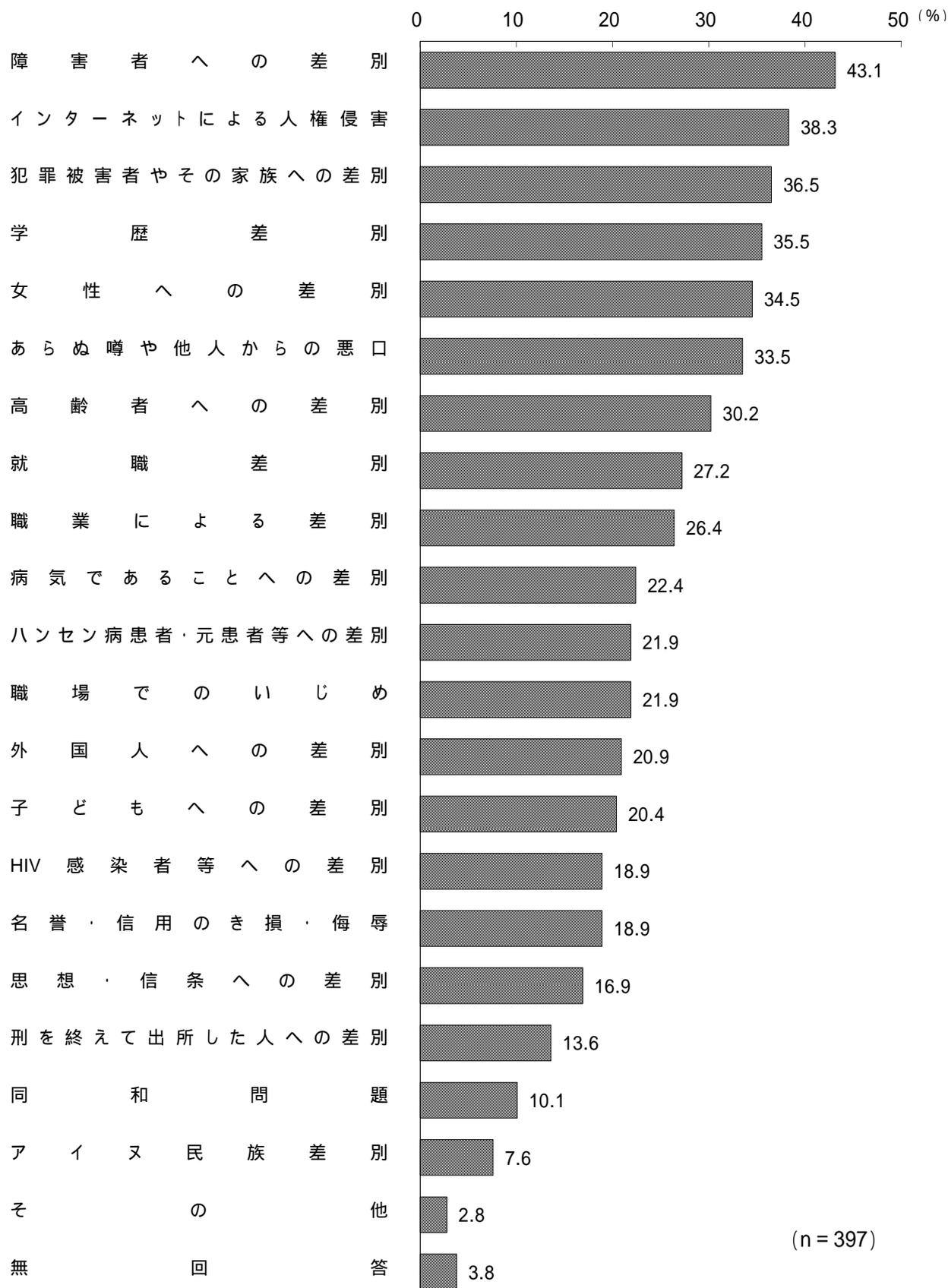
図 2 - 4 - 1 人権が守られている程度（性・年代別）



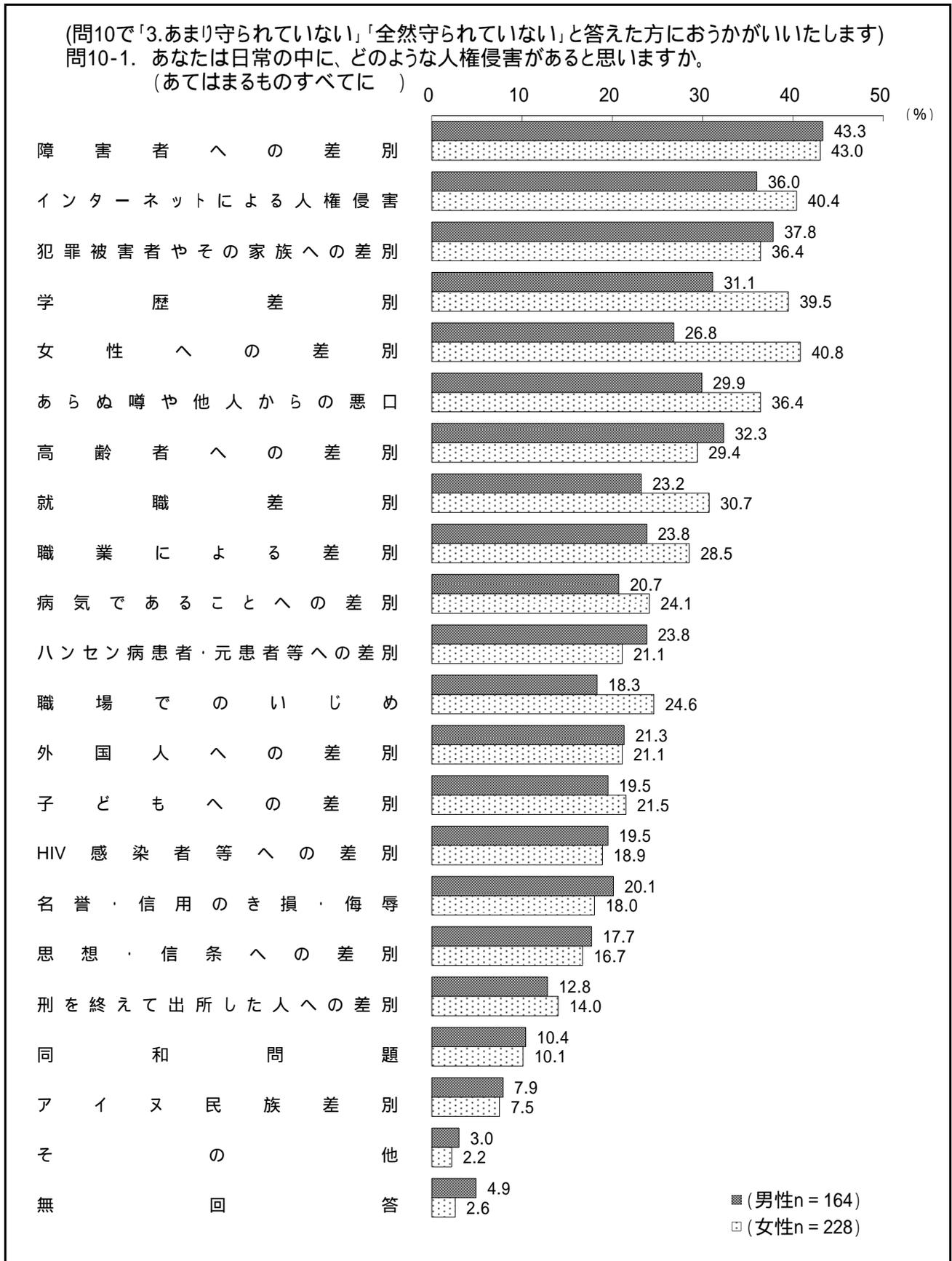
## (5) 日常の中の人権侵害について

「障害者への差別」が唯一40%台（43.1%）で最も多い

(問10で「3.あまり守られていない」「全然守られていない」と答えた方におうかがいたします)  
 問10-1. あなたは日常の中に、どのような人権侵害があると思いますか。  
 (あてはまるものすべてに )



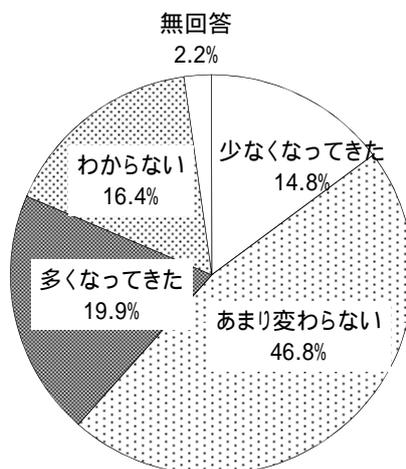
《守られていない》の内訳をみると、最も多いのは「障害者への差別」で、全体、男性、女性において最多である。次に多いのは全体では「インターネットによる人権侵害」で、男性、女性とも第3位となっている。続いて「犯罪被害者やその家族への差別」は男性で第2位、女性では第5位となっている。女性における第2位は「女性への差別」（40.8%）となっている。



## (6) 人権侵害の頻度の変化

あまり変わらないが全体の50%弱を占める

問11 新聞やテレビなどで「人権問題」とか「人権が侵害された」というニュースが報道されることがありますが、あなたは、この5～6年の間に、日本で、人権が侵害されるようなことは、次第に少なくなってきたと思いますか、あまり変わらないと思いますか、それとも次第に多くなってきたと思いますか。( は1つ)

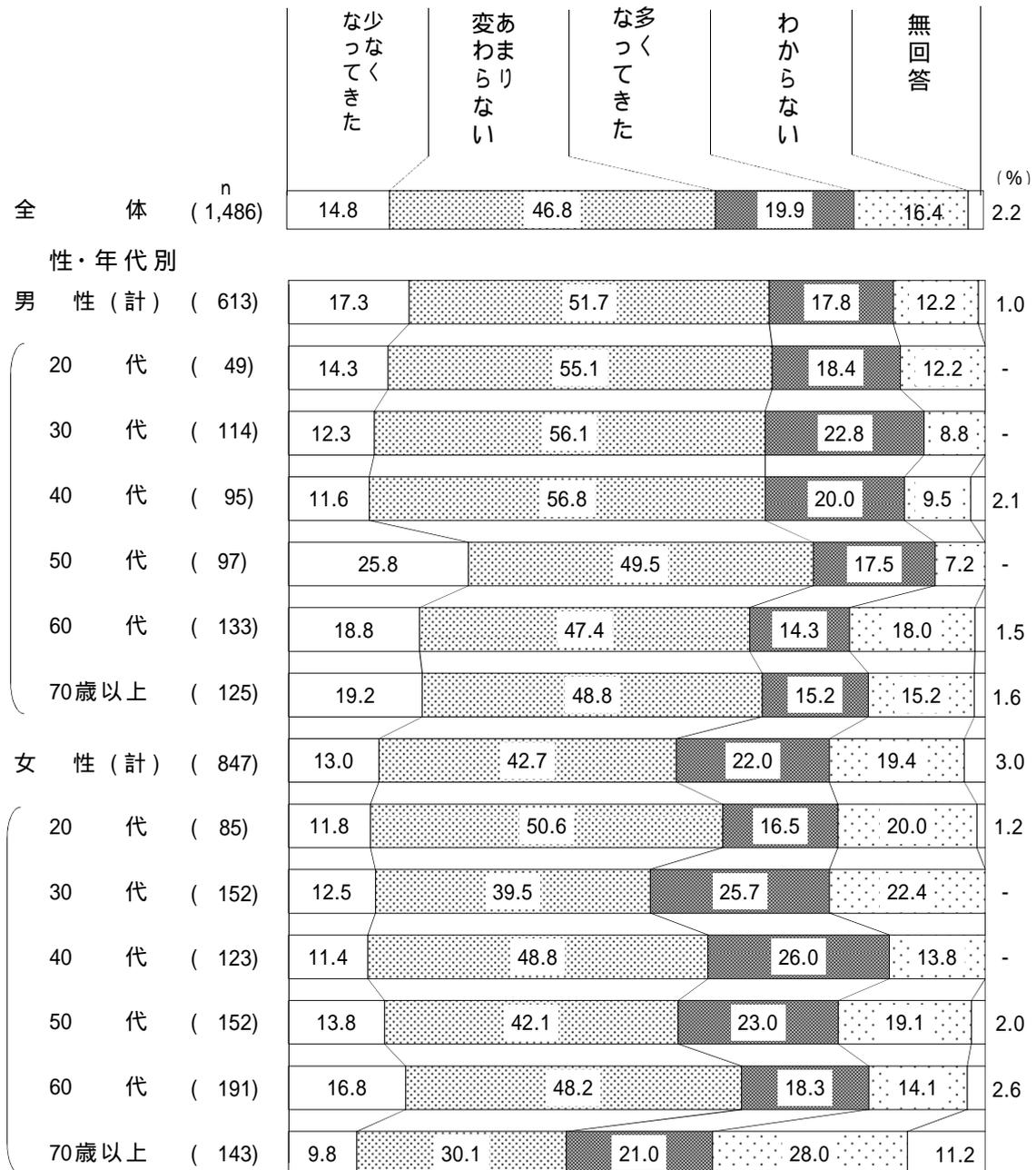


(n = 1,486)

この5～6年の間における人権侵害の頻度の変化では「あまり変わらない」が46.8%で中心となっている。「多くなってきた」は19.9%、「少なくなってきた」は14.8%で「やや多くなってきた」変化がみられる。

性・年代別でみると図2-6-1のとおりである。男女別の比較では、女性の方がやや「多くなってきた」傾向がみられる。「多くなってきた」は女性40代(26.0%)で最も多く、次いで女性30代(25.7%)の順である。「少なくなってきた」は唯一20%台で男性50代(25.8%)である。

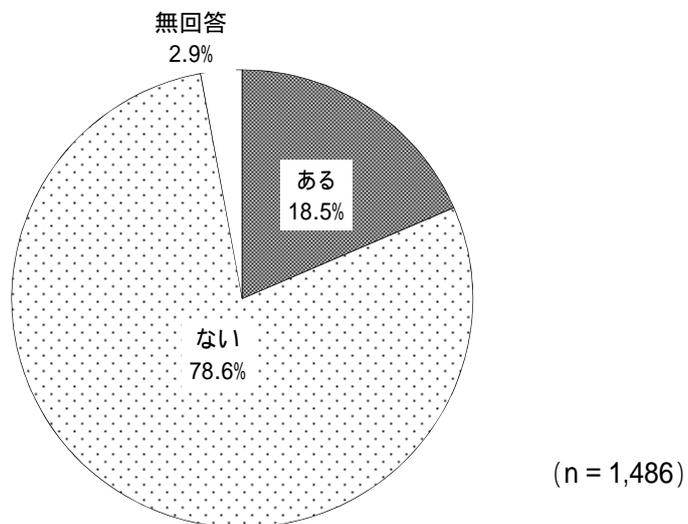
図 2 - 6 - 1 人権侵害の頻度の変化 (性・年代別)



## (7) 自分自身の人権が侵害された認識

侵害されたと思ったことが「ない」が全体の80%弱を占める。

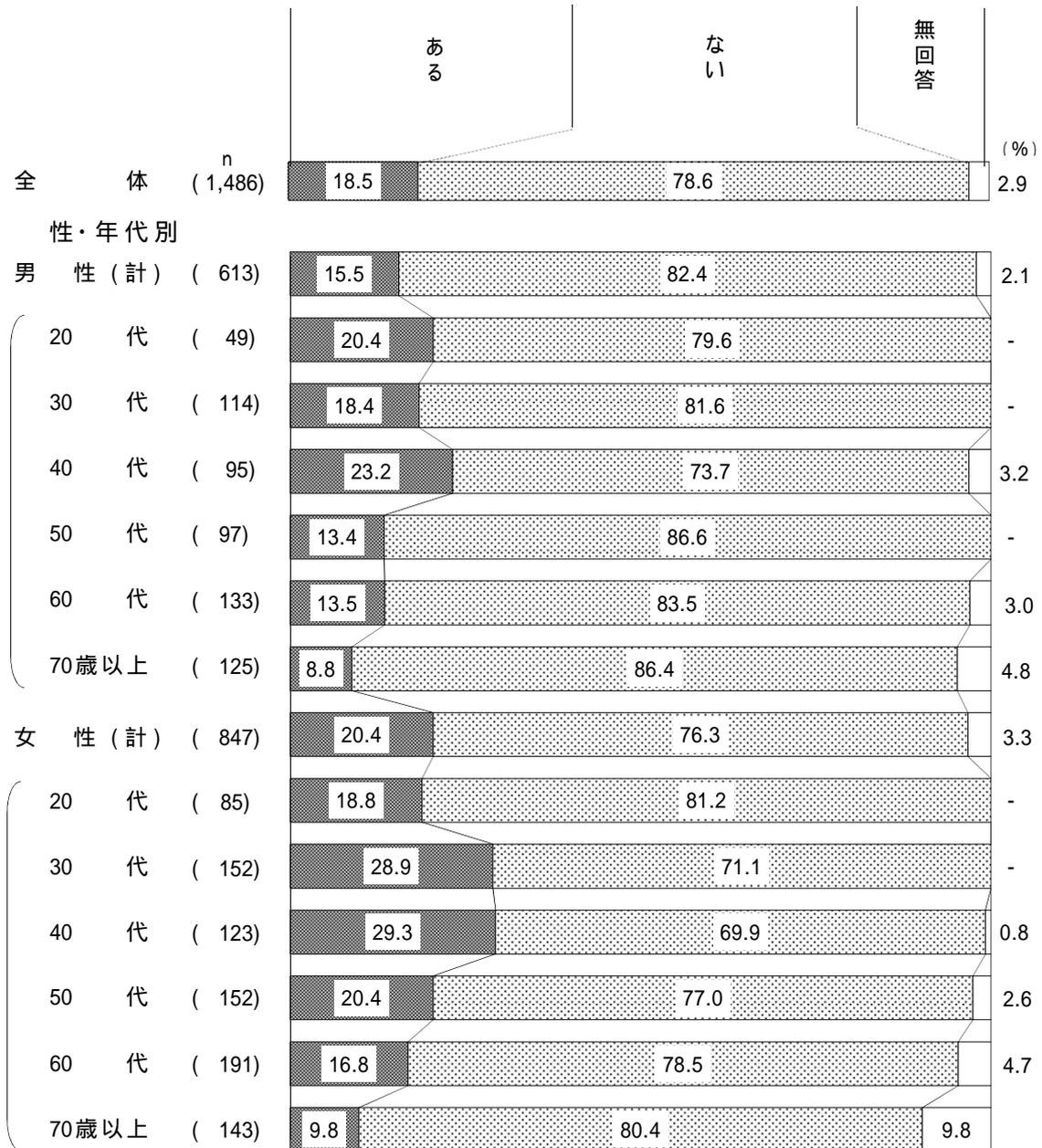
問12. あなたは、今までに、ご自身の人権が侵害されたと思ったことがありますか。  
( は1つ)



今までに自分自身の人権が侵害されたと思ったことが「ない」は全体の80%弱を占めている。但し、「ある」も18.5%出現している。

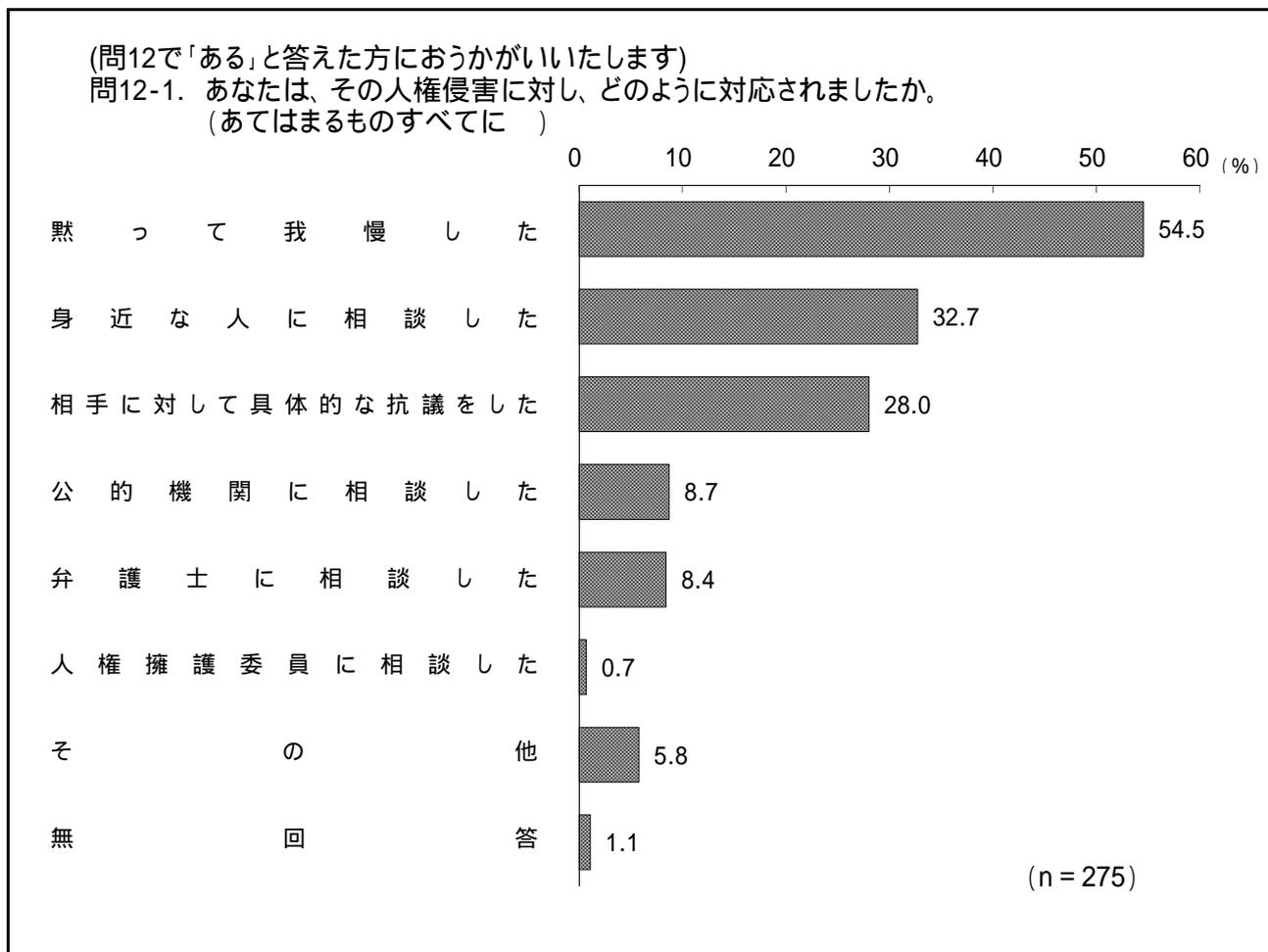
性・年代別をみると図 2 - 7 - 1 のとおりである。男女別で「ある」は男性が15.5%、女性が20.4%で女性の方が4.9ポイント高い。性・年代では「ある」が最も高いのは女性40代（29.3%）、次いで女性30代（28.9%）である。

図 2 - 7 - 1 自分自身の人権が侵害された認識（性・年代別）



## (8) 人権を侵害されたことに対する対応

男女とも「黙って我慢した」が断然多い



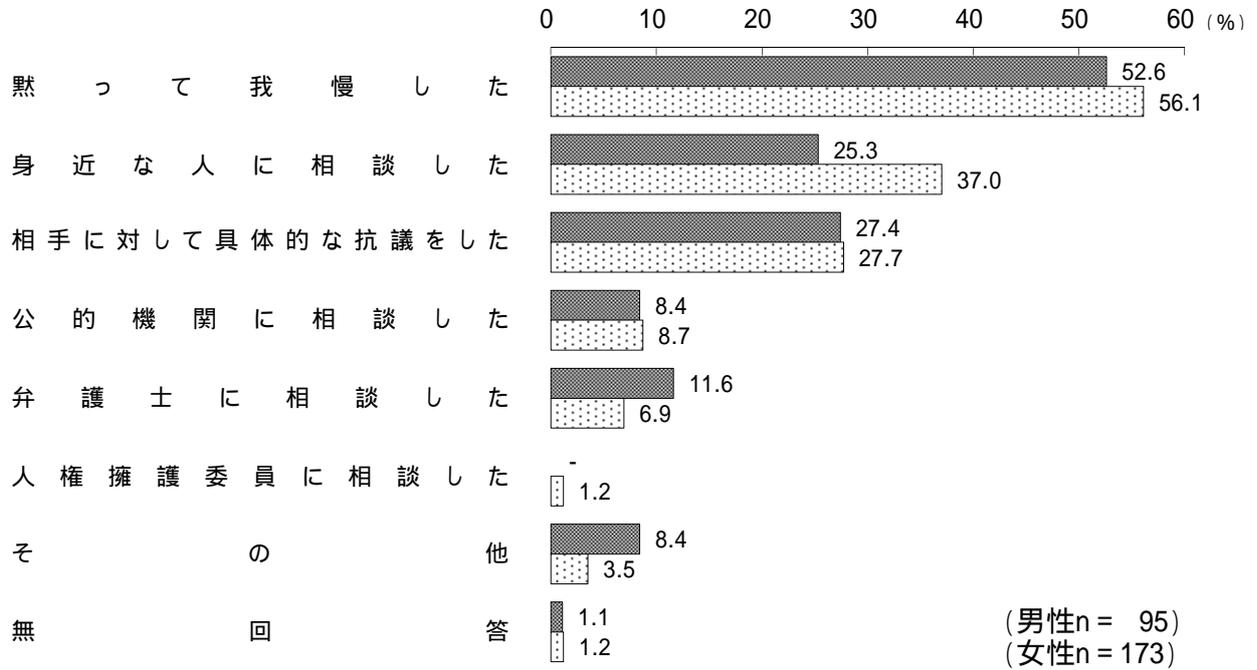
人権侵害に対する対応の仕方で、多いケースの上位3位は全体、男女とも変わらないが、

「身近な人に相談した」ケースは女性の方が多い。

(問12で「ある」と答えた方におうかがいたします)

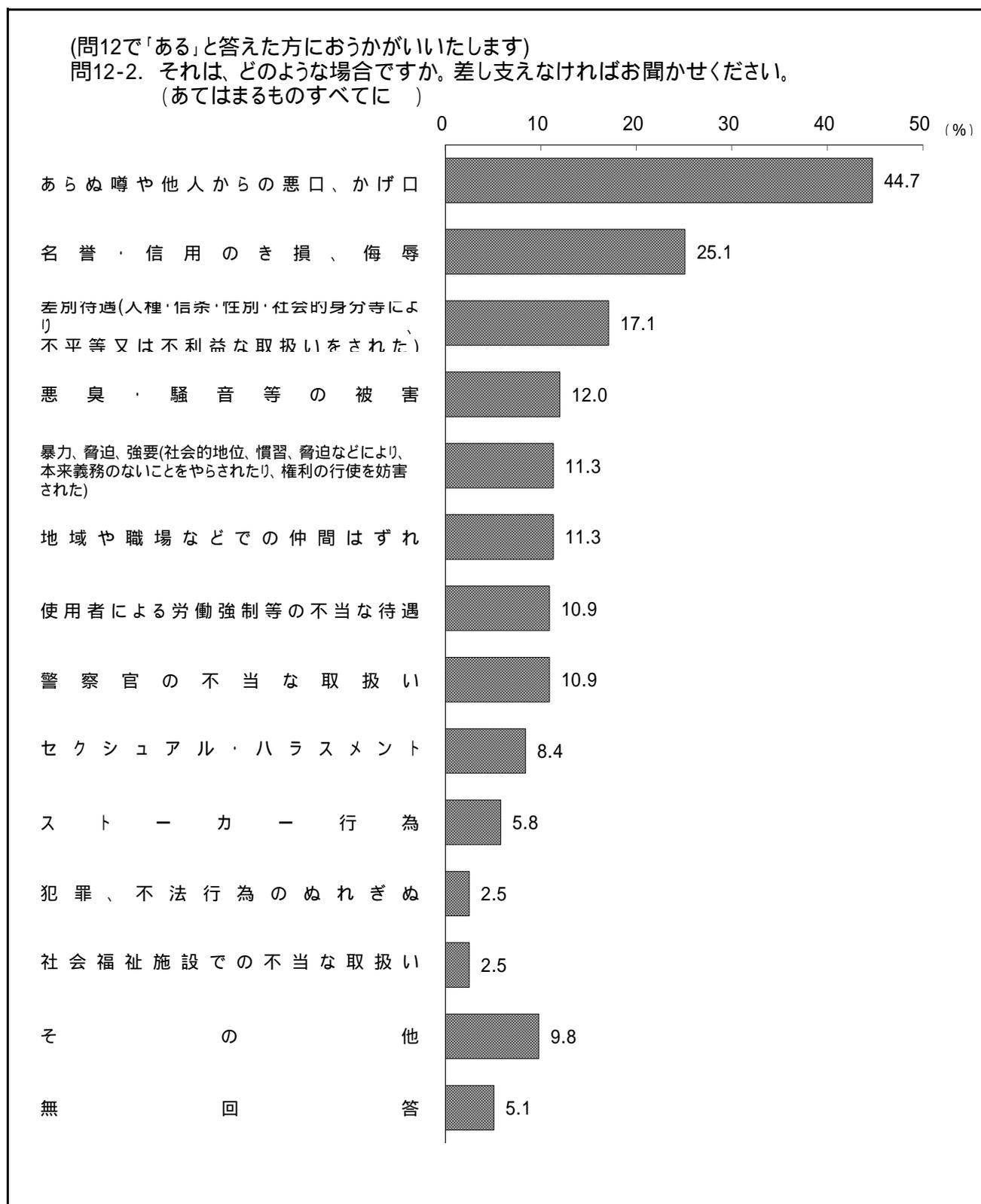
問12-1. あなたは、その人権侵害に対し、どのように対応されましたか。

(あてはまるものすべてに )



## (9) 人権侵害された場合や内容

あらぬ噂や他人からの悪口、かげ口が唯一40%台で断然多い



人権侵害された場合や内容では、「あらぬ噂や悪口、かげ口」が全体で44.7%と最も多い。

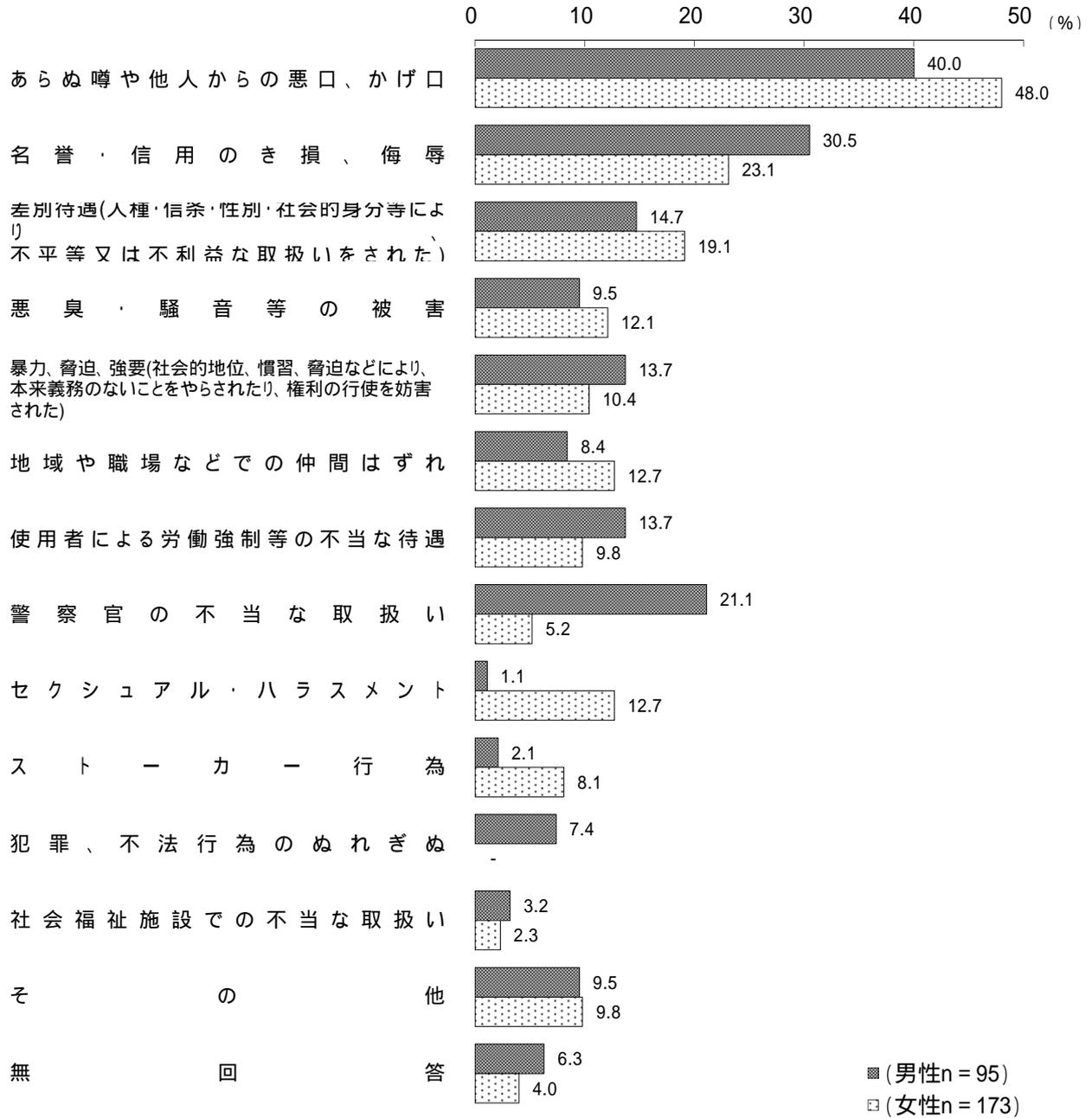
男女別でも共に第1位であるが、女性の方が8ポイント多い結果となっている。

第2位は「名誉・信用のき損、侮辱」が全体で25.1%となっており、男女とも第2位に位置しているが、男性の方が7.4ポイント多い。男性で第3位の「警察官の不当な取扱い」は21.1%であるが、女性は5.2%である。

(問12で「ある」と答えた方におうかがいいたします)

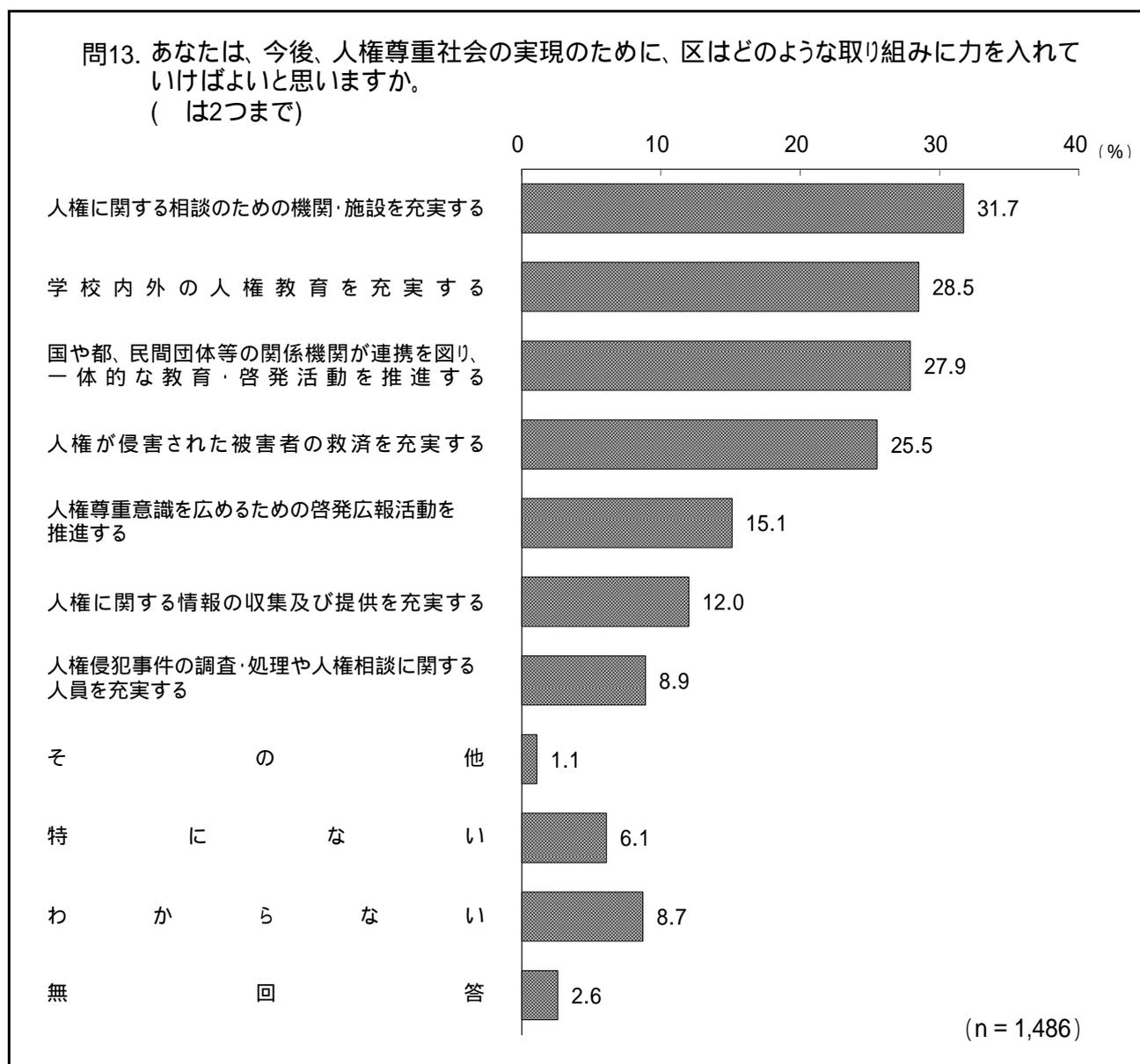
問12-2. それは、どのような場合ですか。差し支えなければお聞かせください。

(あてはまるものすべてに )



## (10) 人権尊重社会の実現化

20代男性が人権教育や被害者の救済に関心をもつ



20代男性が人権教育や被害者の救済に関心をもっている。

第1位は「人権に関する相談のための機関・施設を充実する」で31.7%、20%台で「学校内外の人権教育を充実する」(28.5%)、「国や都、民間団体等の関係機関が連携を図り、一体的な教育・啓発活動を推進する」(27.9%)、人権が侵害された被害者の救済を充実する」(25.5%)と続いている。

性・年代別にみると図2 - 10 - 1のとおりである。

比較的高い40%台を示しているのは「人権に関する相談のための機関・施設を充実する」で女性40代（43.1%）、「学校内外の人権教育を充実する」で男性20代（40.8%）、「人権が侵害された被害者の救済を充実する」で男性20代（42.9%）、女性20代（42.4%）である。

図 2 - 10 - 1 人権尊重社会の実現化（性・年代別）

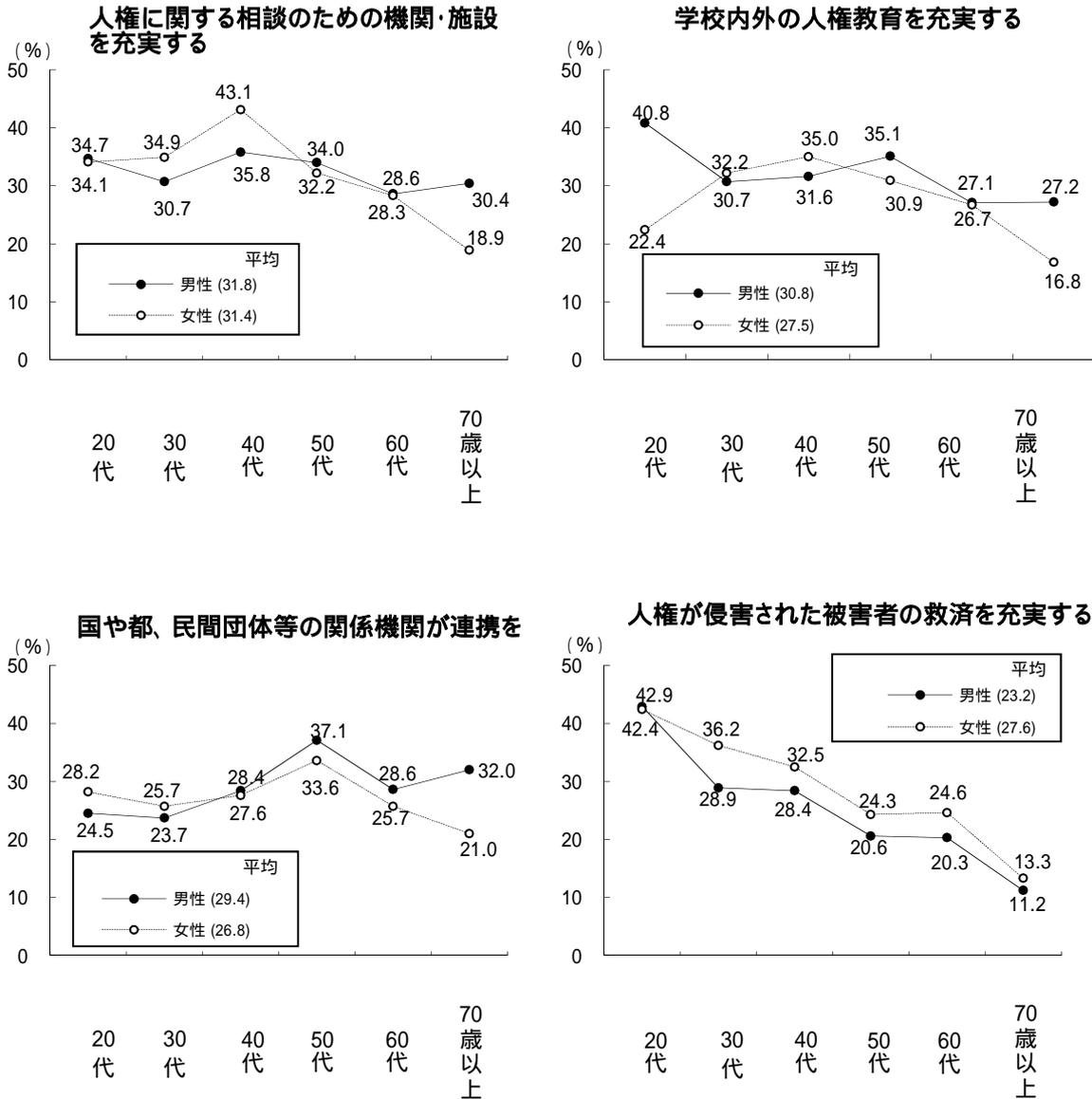


図 2 - 10 - 1 人権尊重社会の実現化（性・年代別） - つづき -

